

# F P まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

## ご挨拶

「令和」時代が始まりましたね。

万葉集の『初春（しよしゆん）の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（やはら）ぎ、梅は鏡前（きやうぜん）の粉（こ）を披（ひら）き、蘭（らん）は珮後（はいご）の香（かう）を薰（かをら）す』からの引用です。

「何事をするにもよい月。めでたい月。」という令月の意味を改めて知った人も多かったのではないのでしょうか？

年金や医療・介護などの社会保障制度が変わっていく中、新しい時代にあった保険や年金の準備のお手伝いをしっかりとしていかなければ、と決意を新たにしています。

「令和」が日本にとって良い時代になると良いですね。



## 今月号のちょっと気になるお金のコラム

平成の30年間で世界の経済や株価はどうなったのでしょうか？その中で日本は？

上手にお金を殖やすヒントがあります。

## 東京の私立大学に進学したらいくらかかるのか？

これから進学を控えるお子様をお持ちのご家庭では気になるところではないでしょうか？

下表は、東京地区私立大学教職員組合連合会が、先月公表した2018年私立大学新入生の家計負担調査による、自宅外の人が受験から入学までにかかった費用です。

	受験費用	私大初年度 納付金	入学時の 居住費	合計
2016年	242,200	1,316,816	572,300	2,131,316
2017年	246,500	1,333,418	597,500	2,177,418
2018年	253,000	1,333,418	595,100	2,181,518

入学後には仕送りが発生します。入学直後で出費がかさむ4月、5月は99,700円（前年比-1800円）、6月以降は83,100円（前年比-3,000円）。4月~12月の仕送り額は781,100円になります。

入学の年にかかる費用は合計で約296万円、世帯の税込み年収の31.9%にもなるそうです。

教育費は税金や社会保険料を引いた後の可処分所得から出費するので、負担感はさらに大きくなります。

入学費用を「借入」した家庭は17%（自宅外20%）、平均借入額は、199.4万円（自宅外238.2万円）でした。

小さいお子様をお持ちのご家庭では、進学に関わる費用の目安として早めに時間をかけて少しずつ準備をしておきたいですね。



F P 松本相談センター

C F P ・ 社会保険労務士

媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250 090-8741-7358

[info@fp-matsumoto.com](mailto:info@fp-matsumoto.com)

<http://fp-matsumoto.com>

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

# 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2019年2月末	240,000	238,390	238,693	239,447
2019年3月末	250,000	247,577	249,022	251,131
2019年4月末	260,000	263,998	263,024	262,719

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

## 投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

## 大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

## 株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

## 4月の株価は前月に比べ日米とも上昇しました。

	日経平均	NYダウ	ドル円
3月末	21,205.81	25928.68	110.84
4月末	22,258.73	26592.91	111.42
騰落率	4.96%	2.56%	

今から30年前、昭和最後の日の日経平均株価は、30209.54でした。バブル経済の真ただ中の当時、その年の年末には市場最高値の38915.87になりました。

バブルは崩壊し、リーマンショック後の2008年10月には、6994円と7000円を割りこむ水準まで値下がりしました。

その後、日本企業の体質改善やアベノミクスなどにより日経平均は2万円台を回復しました。

令和では、多くの日本企業が成長して株価上昇に弾みをつけて欲しいですね。

## 春は運用状況の確認をしましょう

春は卒業、進学、就職、転職、などライフプランに関わる出来事が多い時期です。

また、確定拠出年金の加入者には運営管理機関から取引明細、残高報告書などが送られてくる時期でもあります。

今月は送られてきた報告書を確認・見直し、の手順を整理します。この手順は、確定拠出年金以外の投資でも同様なので、証券会社などに口座を持っている人は合わせてチェックをしてみてください。



# 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

## 1. 損益をチェック

一番気になるのは損益ではないでしょうか？まずはここからチェックしましょう。ただし投資期間が10年以上ある場合は、損益がプラスでもマイナスでも気にする必要はありません。

## 2. 資産配分をチェック

長期の投資で最も大切なのは資産配分であると言われています。

オーソドックスな資産配分の方法は以下になります。

- ① 投資（積立）期間に応じて株式と債券の割合を決める
- ② 株式、債券はそれぞれ日本、先進国、新興国の割合をマーケット規模に準じた形で配分する

1年間でマーケットが大きく動き、1年前に決めた配分と比べ大きく配分が変わった場合には、元の配分にすることを検討します。これをバランスを取り直すという意味で「リバランス」と言います。

リバランスの方法は2通りあります。

- ① 配分が多くなっている商品Aを解約して、配分が少なくなっている商品Bを購入する。
- ② 配分が少なくなっている商品の積立金額を増額して徐々に元の配分に近づくようにする

基本配分との差があまり大きくなければ②の方法のリバランスをしたほうがよいでしょう。

## 3. 商品をチェックする

次にチェックするのは商品です。

投資信託は大きく分けると、平均株価などに連動する設計のインデックス型投資信託と銘柄選択、タイミング選択をすることで平均株価を上回る成果を得ることを目的とするアクティブ型投資信託の2種類があります。

確定拠出年金では、各アセットクラス（株式や債券などの資産の種類のこと）ごとにインデックス型とアクティブ型を選べるようになっていることが多いと思います。

アクティブ型を選んでいて、かつインデックス型に対して成績が劣っている場合には、継続するかインデックス型に変更するか検討しましょう。

検討するためには、

- 保有商品の目論見書や運用レポートを見て、運用方針と実際の投資対象の整合性があるか
- 投資方針や投資信託会社の方針が自分の考えにあってるか

などを確認します。

## 4. 拠出金（掛金）のチェック

投資で成果を得るためには、長期に継続することが必要になります。また、確定拠出年金の場合には、減額はできませんが途中での停止はできませんので、無理なく続けることができる金額かどうかを、今後ライフイベントなどを考慮して確認してください。

## 5. その他の金融商品も合わせてチェック

ライフプランに関わる変化が多いこの時期、その他の金融商品、マネープランも合わせてチェックしましょう。

- 確定拠出年金以外にも老後の準備を検討する必要があるのか？
- 万が一があった場合は今の生命保険で安心か？
- 住宅ローンに見直し余地はないか？

なども合わせて確認するとよいでしょう。

## まとめ

長期の資産運用で成果を出すには、2~4の一見地味に見える作業を地道に継続することが大切です。

年に一度この時期に是非確認してみたいかがでしょうか？

## ちょっと気になるお金のコラム

「令和」時代のスタートに当たり平成30年間の世界の経済やお金の動きはどのようなものだったから振り返ってみたいと思います。

### 世界経済は大きく成長した

下表は平成元年と平成30年の世界のGDP（ドルベース単位：10億ドル）を比べたものです。（出典IMF）

	1990年	2018年	
世界	23,448.10	84,740.32	3.61倍
先進国	18,328.67	51,069.77	2.79倍
日本	3,132.82	4,971.93	1.59倍
米国	5,963.13	20,494.05	3.44倍
ドイツ	1,592.59	4,000.39	2.51倍
イタリア	1,171.00	2,072.20	1.77倍
中国	398.623	13,407.40	33.63倍

30年間で世界全体の経済は3.61倍になりました。GDP世界2位の座を奪った中国はなんと33倍も成長したのです。経済が成熟していると言われている先進国でも平均2.79倍、GDPの成長だけで見ると日本はイタリアよりも劣っています。

経済成長が無ければ給料やそれに伴う税収も増えません。老後に安心して年金や医療を受けるためにも経済成長は必要になります。

### 世界の株式は上昇した

日本では株式投資は特別なもの、難しいもの、という印象が強いかもしれません。下表は同じく平成の30年間の株価の推移を表したものです。

	1990年1月	2019年3月	
日本を除く先進国①	366	2,143	5.85倍
先進国（日本含む） + 新興国②	133	509	3.83倍
日経平均株価	37,189	21,206	0.57倍
ニューヨークダウ平均 株価	2,591	25,929	10.01倍

①②は以下の株価指数です。  
①MSCI KOKUSAI ②MSCI ACWI

世界の株価は、30年間で3.83倍に、日本を除く先進国の株価は5.85倍になりました。ニューヨークダウ平均株価はなんと10倍です。同じ期間日経平均株価は0.57倍でした。

日本では、全体が下がっている中で上がる株を探すことが必要だったので、株式投資は難しいもの、になってしまったのかもしれませんが。

日本以外の国では、全体が上がっているのがピンポイントで上がる銘柄を探さなくても資産を殖やすことができた、という事が言えます。

### 固定金利でお金を殖やすのは難しい時代

最後の表は日米の10年国債の利回りです。今はご存知の通りゼロ金利ですが、日本でも30年前は5%近くあったのです。

	1990年1月	2019年3月
日本	4.79%	-0.08%
米国	8.57%	2.56%

こうしてみると平成の30年は、日本でお金を殖やすのはとても難しい時代だったことが実感できます。

是非「令和」時代の日本に期待をしたいところです。

ただし、やはりお金を殖やすには、日本だけでなく世界の様々な国や地域に置いておくことを検討しておくのが良いかもしれません。



# お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎているか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

## ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

## FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を差し上げます。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方     | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方        |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について     |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について     |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方     | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方        |
| <input type="checkbox"/> その他             | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒  
<http://fp-matsumoto.com/contact/>



↓ FAX:050-3730-0380 ↓

個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内